

2012.7-8
NO. **40**

- | | | |
|----|--------|--|
| 03 | TALK | NINAGAWA 千の目 ^{まなざし} 第25回 in 熊谷
尾上菊之助×蜷川幸雄 |
| 06 | PLAY | 愛と欲望の物語に挑む美しき男たち
彩の国シェイクスピア・シリーズ第26弾
『トロイラスとクレシダ』
INTERVIEW 山本裕典・月川悠貴
細貝 圭・長田成哉・佐藤祐基・塩谷 瞬・内田 滋 |
| 09 | COLUMN | アーティストの原点06 柳家喬太郎 |
| 10 | DANCE | 映画で観るダンス!ダンス!ダンス!
『dance on screen』 |
| 12 | DANCE | 進化し続けるイスラエルのダンス・カンパニー
バットシェバ舞踊団『Sadeh21ーサデ21』 |
| 14 | MUSIC | 10代のプリンス、待望の登場
ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.19
ヤン・リシエツキ ピアノ・リサイタル |
| 16 | REPORT | パイプオルガンを身近に『みんなのオルガン講座』 |
| 17 | TOPICS | アケラム・カーン、ロンドン・オリンピックの開会式を振付
埼玉会館ランチタイム・コンサート |
| 18 | REVIEW | 2012.5-6 彩の国のアーツ |
| 20 | | イベント・カレンダー／チケットインフォメーション
彩の国シネマスタジオ |
| 23 | | THEATER BRIDGE |



COVER
彩の国シェイクスピア・シリーズ第26弾
『トロイラスとクレシダ』
Photo◎阿部高之

SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2012.7-8 No.40
編集◎市川安紀 [アルカディア社]、結城美穂子 デザイン◎中野一弘 [bueno]

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
Published on 15. July 2012 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
※掲載情報は、2012年6月25日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

TALK

蜷川幸雄公開対談シリーズ
【NINAGAWA 千の目^{まなざし}】
第25回 in 熊谷

演劇は「旅」をしている感じがします

また現代劇と一緒にやりたいですね

歌舞伎俳優

演出家・彩の国さいたま芸術劇場芸術監督

尾上菊之助×蜷川幸雄

「何の打ち合わせもしていないので緊張しています」と爽やかに笑う尾上菊之助さん。
7月8日の松竹大歌舞伎『義経千本桜』に先駆けて熊谷会館に登場と相成りました。
迎える蜷川幸雄からは、思いがけないリクエストも飛び出して……。

Photo ◎宮川舞子

蛭川(以下蛭) 菊之助さんと事前にしゃべらないように気をつけてまして、新鮮な話ができばいいなあと。歌舞伎でシェイクスピアの『十二夜』をやって以来ですね。今度には熊谷で『義経千本桜』でしょう？

菊之助(以下菊) 忠信を初役でつとめさせていただきます。荒事も狐も初めてで、まだつかめていない状態ですけど。

蛭 『千本桜』でもいろんな型がありますよね。芸風とか、誰が得意としているとか。そういう選択はどうするんですか。

菊 まずどなたにお話を聞きにいくか、からですね。曾祖父の6代目菊五郎から2代目松緑のおじさんに伝わったものを父がやらせていただいているので、「四の切^{しきり}」は父に聞きます。「鳥居前」は(坂東)三津五郎のお兄さんにお聞きしようと。近年多くおやりになっているので。



蛭 それぞれポイントが違うんですか。

菊 先輩方によって本当に教え方はさまざまです。(坂東)玉三郎のお兄さんは、型というより性根を大事にしないといつもおっしゃいます。一緒にビデオを見ながらお話ししてくださる先輩もいらっしゃいますし、『封印切』の梅川では、片岡秀太郎さんにお伺いしました。私は上方の芝居は初めてだったので、関西弁の女方がどういうものか分からなかったですし、体の使い方も江戸と上方とで若干違うんです。

蛭 例えば、今、着物を着てなくても、その違いを見せてもらえるんですか。

菊 たぶん出来ると思います。江戸の女性は小股が切れ上がっていて、関西の女性は腰の辺りにやや丸みがあって、少し腰を落とすような感じで……(と実演)
(会場からどよめきと拍手！)

蛭 こう見ただけでも違いますね。すごく常識なことを要求しているわけで、通常、洋服で女方の仕草をやってくれるなんてないですよ。僕はこういうところがす

ごく面白くて、現代の俳優が、少し自分の体をいじめながら、なおかつ自由に体を操作してくれるように願って、「歌舞伎の女方を見習え、バカヤロー！」と怒鳴ってます(笑)。でも、通じないんです。菊之助さんは自在におやりになるから、すごく楽しいですね。伝統と才能の中でどんどん成長されているんです。

役を広げる楽しさ

蛭 菊之助さんはすごく真面目なんですよ。一緒に仕事をしようと思うと、稽古場にやって来て、稽古場の隅で稽古が終わるまでジーンと待ってる。

菊 怪しい人みたいじゃないですか(笑)。

蛭 ああ、菊ちゃんが隅に座ってる、何か予感がするなって(笑)。ひたむきな視線に負けちゃうんですよ。それでよく一緒に仕事するようになったんです。演出家と俳優でありながら、得がたい友人でもあるんですね。お姉さんの寺島しのぶさんとも僕は一緒に仕事してまして、菊之助さんとはまったく性格が違う姉弟で。

菊 これは不思議なんですよ(笑)。

蛭 以前『ギリクス』という芝居にお2人に出ていただいたんですが、姉弟で近親相姦かと思うくらい仲が良い話なんです。姉弟で恥ずかしい？って聞いたら、「恥ずかしいですよ、お父さんともラブシーンやるから」って。そういう世界に生きてるんですね。だから僕は本当に彼らと仕事をする、発見することばかりです。お父さんと仕事している時は、どういう心の処理の仕方をしているんですか。

菊 歌舞伎を始めた頃は、父に支えてもらって舞台に立てている感じでした。最近には純粋に1人の先輩、そして役として舞台に立たせてもらっている感覚ですね。もちろん甘えは許されないですし、やはり父とやると身が引き締まります。

蛭 普通の家族とちょっと違うね。

菊 そうですね、家の中でも、父というより師匠という感覚は続いていますね。舞台の延長線上に家族がある感じがします。

蛭 (客席に)歌舞伎を観たことがないという人は絶対観てくださいね。客引きのジジイのような気分です(笑)。でも今日は観て

いる方が多いですね。今度の作品で一番注意しているのはどんなことですか。

菊 「鳥居前」は荒事の体使いをしないといけないんです。骨格の違いを意識して役づくりをしなければいけない。三津五郎のお兄さんの本に、「荒事は心に“怒り”という字を書いてやりなさい」と書いてあって、あれだけ筋肉的な動きというのは、1人の人間が沸き上がるエネルギーをどれだけ作れるかの象徴だと思うんです。私はどちらかというとな方のほうが多いですし、初めて荒事の役をやらせていただくにあたって、自分の体をどう使ったら表現できるのかを探っているところです。「四の切」の忠信は、親子の情愛を大切に狐の心情をどれだけ出せるかですね。あとは狐言葉というのがありまして、義太夫物は必ず文楽の豊竹咲大夫さんにお稽古をしていただくんですけど、難しいですね。

蛭 菊之助さんのように女方を多くやっている方が荒事をやるというのは、結構な荒技ですよ。そういう風に役を広げていくのは楽しいんですか。

菊 非常に楽しいです。演劇って、旅をしている感じがするんです。自分の体を通して役というチケットをもらって、舞台の中でどう自分を運用し、役を楽しめばお客さんに伝わるのか。立役も女方も落差があるほど楽しいですね。いろんな世界を見せていただいて、旅を本当に楽しめた時に、得られるものが多いんです。



『NINAGAWA 十二夜』
菊之助の依頼により、蛭川が歌舞伎を初演出。2005年に歌舞伎座で初演、09年にはロンドン・バービカン・シアター公演も行った。左より尾上菊五郎、尾上菊之助、中村時蔵 © 松竹株式会社



『ギリクス』
2000年、シアター・コクーンにて。上演時間9時間に及ぶギリシャ悲劇の超大作。菊之助は姉の寺島しのぶ(右)と姉弟役で共演した。Photo © 谷古宇正彦

喉を痛めて見えたこと

蛭 歌舞伎版『十二夜』では立役と女方の両方をやったんですよ。菊之助さんはすごく口^{こう}跡^{せき}がいいんですが、声を痛めたことはないんですか。

菊 いや、ありました。去年の暮れから年明けにかけては絶不調だったんです。平成中村座で『寺子屋』の武部源蔵を初めてつとめさせていただいて、今まで出したことがないような太^とい声を出していたんですね。さらに『関の扉』の墨染という女方の役もいただいて、全部全力でやっていたら喉をやられちゃって……。

蛭 一番美しい声と言われる菊之助さんが喉をやられたのは大変傷つくでしょ。

菊 びっくりしました。そこまでつぶしたことはなかったの。朝起きて声を出そうとしても、出ない時には出ない。1日が始

まるのがちょっと憂鬱なんですね。

蛭 そういう調子の悪い時にやり続けて、それでもなおかつ自分の声を出せるようにするというのも大事なことです。

菊 そうですね。お客様もお聞き苦しかったと思うんですけど、その中でどうしたら伝わるのかは本当に考えました。でも(中村)勘三郎のお兄さんから、「声をつぶしてから、かえって源蔵の感情がどんどん出てきたね」とおっしゃっていたんです。自分が得意とするところに頼って大事なことを忘れることってあるんじゃないかなとも感じました。

蛭 私もシェイクスピアをやる時、「もっと大きな声を出せ」と言うと、俳優がみんな喉をやられるんです。辛いだろうと思うけれど、そういう個人のドラマを抱えながら、成長していくんでしょうね。

ひたむきさに感動

蛭 菊之助さんとの最初の仕事は、さっきお話しした『ギリクス』です。これはギリシャ悲劇ですが、大きな壺にオリーブオイルが入っている設定にしたんですね。昔、『女殺油地獄』で油屋の店先で油にまみれて殺人が行われる壮絶なシーンを観て、歌舞伎はすごいと思ったんです。それを使えないかなと。菊之助さんがやってくれば、歌舞伎と現代劇の技術が融合して、新しいギリシャ悲劇が生まれるんじゃないかなと思ったんですね。

菊 現代劇に出させていただくのが初めてだったので、台本をどう解説したらいいのか、全然分からなかったんですね。歌舞伎は先輩たちの演技、台詞回しを参考に勉強

するんですけど。しょっちゅう蛭川さんのところに伺ってました。

蛭 でも、菊之助さんはすごく良かったんですよ。自分でキャラクターをちゃんと作っていたんです。僕らと一緒にギリシャまで来て、いろんなところを回って。あのひたむきさを見たら、誰だって一生懸命、菊之助さんと仕事をしたいと思うようになりますよ。僕は感動しました。円形のよく声が響く古代劇場で台詞を言ってみたりね。ヨーロッパの人たちが、日本の若者が「アポロンよ！」なんてやってるのを聞いて、上手いから拍手するんです。

菊 ハハハ、そんなことないですよ！

蛭 そんなふうには困難な旅も一緒にしながら、歌舞伎でロンドンにも行ったりね。時にはまた現代劇にも出てくれるといい



なあ、と思いますね。シェイクスピアのオールメールもあるので、歌舞伎とは違った菊之助さんの女方が見られたら嬉しいな、なんて野心も(笑)。(拍手)

菊 私も久しぶりに蛭川さんとお話しさせていただいて、現代劇にもまた挑戦してみたいという気持ちも起こりました。

蛭 今日は江戸と上方の女方の違いなんて貴重なものまで見せていただいて、ありがとうございました。

菊 こちらこそ、楽しかったです。(拍手)

[2012年6月23日 熊谷会館]

おのえ・きくのすけ
1977年生まれ。七代目尾上菊五郎の長男。84年2月歌舞伎座『絵本牛若丸』で六代目尾上丑之助を名乗り初舞台。96年5月歌舞伎座『弁天娘女男白浪』の弁天小僧菊之助ほかで五代目尾上菊之助を襲名。現代演劇の分野でも、蛭川幸雄演出の『ギリクス』でオレスティス役を演じ注目を集める。05年には『NINAGAWA 十二夜』を実現させ、獅子丸、主膳之助、琵琶姫の三役を替わり、読売演劇大賞杉村春子賞、朝日舞台芸術賞寺山修司賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞など多数受賞。近年『伽羅先代萩』の政岡、『摂州合邦辻』の玉手御前など女方の大役をつとめるとともに、『京鹿子娘道成寺』、『春興鏡獅子』などの舞踊、また『髪結新三』の勝奴、『入谷』の直侍など立役にも意欲的に取り組んでいる。